

2021年度 授業シラバスの詳細内容

| ○基本情報 | | | |
|-------------|--|-------------------|--------------|
| 科目名 | 外国史 (Foreign History) | | |
| ナンバリングコード | K10701 | 大分類 / 難易度 科目分野 | 教職科目 / 基礎レベル |
| 単位数 | 2 | 配当学年 / 開講期 | 2年 / 後期 |
| 必修・選択区分 | 教職関係科目 (必修): 中学校教諭一種免許状 (社会) ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。 | | |
| 授業コード | K000151 | クラス名 | - |
| 担当教員名 | 甘利 弘樹 | | |
| 履修上の注意、履修条件 | 授業には必ず出席すること。本授業は教職科目ですので、教員養成を前提に授業をします。そのため、時間厳守・連絡徹底など、社会人としてのマナーを求めます。遅刻する人・無断欠席する人・無断退室する人など、マナーを守れない人は履修しないでください。約束事やルールを守れない学生は、評価の対象外とします。なお、授業時の座席指定はありません。また、配布資料について、毎回の授業で持参してもらいます。欠席して配布資料を受け取れなかった人は、授業担当教員に自己申告して指示を受けてください。配布資料を紛失した場合の再配布はありません。 | | |
| 教科書 | 帝国書院編集部編『アドバンス中学歴史資料』(帝国書院、2020年、¥712)。日本史と外国史両方を受講する学生は、両授業で1冊持っていれば構いません。その他に、板書・プリントを使用します。 | | |
| 参考文献及び指定図書 | 授業中に指示します。 | | |
| 関連科目 | 日本史 | | |

| ○基本情報 | |
|------------------|--|
| 授業の目的 | 本授業は、中学校社会科免許取得の必修科目であることから、「中学校学習指導要領」に基づき、かつ社会科(歴史的分野)を教授していくために必要な知識を身に付け、実践してもらいます。そして中学校社会科の範囲における国家・地域や時代を学びながら、特に諸外国の歴史について理解し、知識を持つことによって、社会科教員としての資質能力を高めることが大きな目的です。また、本学のディプロマポリシーに対応して、文化・伝統についての幅広い視野を涵養すること、グループワーク等のアクティブ・ラーニングを通して、世界史の専門知識を活用するための技能とプレゼンテーション能力を育成すること、ならびに課題解決型授業をふまえ、課題解決において多角的かつ柔軟な思考力をもてることを目的とします。 |
| 授業の概要 | 中学校社会科の範囲における世界の歴史について考察します。2008年及び2017年の「中学校学習指導要領」では、我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの充実が求められています。さらに我が国の歴史の展開を、世界の歴史と一層関連づけて学習するようになっていることから、授業方法も従来と異なる多様なものが必要となっています。本授業では、より有効な歴史の授業を行うために、我が国の歴史に深く関わった世界の動きを整理・分析し、併せて斬新かつ効果的とされる授業方法について考えていきます。なお、本授業では、グループワーク・課題解決型学習・プレゼンテーション等を適宜取り入れたアクティブ・ラーニング型授業を実施します。 |
| 授業の運営方法 | (1) 授業の形式 「演習等形式」 (2) 複数担当の場合の方式 「該当しない」 (3) アクティブ・ラーニング 「グループワーク」 |
| 地域志向科目 | 該当しない |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 甘利弘樹 本授業の外国史学修に関する実務経験として、嘉悦女子中学校・高等学校において非常勤講師として高校世界史担当教員に従事。また、大分リハビリテーション専門学校において非常勤講師として医学史をテーマとした歴史学の授業担当教員に従事。 |

| ○成績評価の指標 | | ○成績評価基準(合計100点) | | |
|-------------------|--|-------------------|-------------------|------------------|
| 到達目標の観点 | 到達目標 | テスト (期末試験・中間確) | 提出物 (レポート・作品等) | 無形成果 (発表・その他) |
| 【関心・意欲・態度】 | 歴史学・歴史教育に対する関心・意欲を高めた上で、教員として使命を持って授業を担当できる態度を形成する。 | | 10点 | 5点 |
| 【知識・理解】 | 中学校社会科の授業を遂行するために必要な世界の歴史の知識(高等学校世界史程度)を身に付けている。世界の歴史を教授するために必要な授業方法を理解している。 | 40点 | 10点 | 5点 |
| 【技能・表現・コミュニケーション】 | 教材となる様々な資料を適切に収集・分析し、有効な歴史の授業を実施できる。 | | 10点 | 5点 |
| 【思考・判断・創造】 | 世界の歴史を多面的・多角的視点から教授できるようになるとともに、より効果的な授業を行うための工夫ができる。 | | 10点 | 5点 |

| ○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法) | |
|--|--|
| 原則として毎回の授業の最後に、習得した知識・考え方を小レポートにまとめ、提出してもらいます。本レポートによって出席に代えるとともに、中学校社会科の授業を遂行するために必要な能力・姿勢が形成されたかをみます。また、提出されたレポートは、次回以降の授業で返却します。 授業中に担当教員から出された質問に対して、必ず回答をしてもらいます。回答の優れた学生には、相応の加点をすることがあります。 | |

| ○その他 | |
|------|--|
| | |

2021年度 授業シラバスの詳細内容

| ○授業計画 | 科目名 担当教員 | 外国史 (Foreign History) 甘利 弘樹 | 授業コード | K000151 |
|--|--|--------------------------------|-------|---|
| 学修内容 | | | | |
| 1. オリエンテーション 外国史の意義、中学校学習指導要領の内容、授業の進め方など教員になることの職業意識について説明します。 | | | | |
| 予習 | 教科書pp.I-IV、pp.208-227、p.232を読み、本授業の背景となる基礎知識を理解しておく。 | 約2時間 | 復習 | 予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における歴史の授業で教授すべき内容を検討し、まとめる。 |
| 2. 世界の古代文明 グループワーク・プレゼンテーションを通して、中国の文明を中心に、古代の諸文明の特色について学びます。 | | | | |
| 予習 | 高校世界史B教科書の「世界の古代文明」の部分、またはそれと同等の書籍を読み、理解しておく。 | 約2時間 | 復習 | 予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における古代世界史の授業で教授すべき内容をまとめる。 |
| 3. 古代の日本と東アジア世界 課題解決型学習・プレゼンテーションを通して、大和朝廷成立期～平安時代の日本と東アジア諸国との交流について学びます。 | | | | |
| 予習 | 高校世界史B教科書の「5～11世紀の東アジア史」の部分、またはそれと同等の書籍を読み、理解しておく。 | 約2時間 | 復習 | 予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校におけるアジア史の授業で教授すべき内容をまとめる。 |
| 4. 中世の日本と東アジア世界 課題解決型学習・プレゼンテーションを通して、鎌倉時代～戦国時代の日本と東アジア諸国との関係を、さまざまトピックをもとに学びます。 | | | | |
| 予習 | 高校世界史B教科書の「12～16世紀の東アジア史」の部分、またはそれと同等の書籍を読み、理解しておく。 | 約2時間 | 復習 | 予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校におけるアジア史の授業で教授すべき内容をまとめる。 |
| 5. 日本へのヨーロッパ人來航とその背景 課題解決型学習・グループワーク・プレゼンテーションを通して、ヨーロッパ人による新航路の開拓、ルネサンス、宗教改革について学びます。 | | | | |
| 予習 | 高校世界史B教科書の「15～16世紀のヨーロッパ史」の部分、またはそれと同等の書籍を読み、理解しておく。 | 約2時間 | 復習 | 予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における中世ヨーロッパ史の授業で教授すべき内容をまとめ |
| 6. 近世初期における日本の対外関係 課題解決型学習・グループワーク・プレゼンテーションを通して、織田・豊臣による統一事業の時期から江戸幕府成立期までの日本と世界の関わりについて学びます。 | | | | |
| 予習 | 高校世界史B教科書の「17～18世紀の東アジア史」の部分、またはそれと同等の書籍を読み、理解しておく。 | 約2時間 | 復習 | 予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における17～18世紀の東アジア史の授業で教授すべき内容 |
| 7. ヨーロッパにおける近代社会の形成 課題解決型学習・グループワーク・プレゼンテーションを通して、イギリス・アメリカ・フランスで起こった市民革命について学びます。 | | | | |
| 予習 | 高校世界史B教科書の「17～18世紀後半のヨーロッパ史」の部分、またはそれと同等の書籍を読み、理解し | 約2時間 | 復習 | 予習の内容及び授業の内容を振り返り、17～18世紀後半のヨーロッパ史の授業で教授すべき内容をまとめ |
| 8. 産業革命 課題解決型学習・グループワーク・プレゼンテーションを通して、18世紀後半にイギリスで起こった産業革命とその社会への影響について学びます。 | | | | |
| 予習 | 高校世界史B教科書の「イギリス産業革命」の部分、またはそれと同等の書籍を読み、理解しておく。 | 約2時間 | 復習 | 予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校におけるイギリス産業革命の授業で教授すべき内容をまとめ |

| ○授業計画 | 科目名 担当教員 | 外国史 (Foreign History) 甘利 弘樹 | 授業コード | K000151 |
|--|--|--------------------------------|-------|---|
| 学修内容 | | | | |
| 9. アメリカの台頭 課題解決型学習・プレゼンテーションを通して、19世紀におけるアメリカの政治・経済・文化について学びます。 | | | | |
| 予習 | 高校世界史B教科書の「18～19世紀前半のアメリカ史」の部分、またはそれと同等の書籍を読み、理解してお | 約2時間 | 復習 | 予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校におけるアメリカ史の授業で教授すべき内容をまとめる。 |
| 10. 欧米諸国のアジア進出 課題解決型学習・グループワーク・プレゼンテーションを通して、ヨーロッパ諸国・アメリカの対外進出と、それに対するアジア諸国の対応・変容について学びます。 | | | | |
| 予習 | 高校世界史B教科書の「19世紀後半における世界史」の部分、またはそれと同等の書籍を読み、理解してお | 約2時間 | 復習 | 予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における19世紀後半の授業で教授すべき内容をまとめる。 |
| 11. 世界史上の日清・日露戦争 課題解決型学習・グループワーク・プレゼンテーションを通して、日清・日露戦争を、世界史的観点から捉えつつ学びます。 | | | | |
| 予習 | 高校世界史A教科書の「1890年代～1900年代の世界史」の部分、またはそれと同等の書籍を読み、理解して | 約2時間 | 復習 | 予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における1900年頃の世界史の授業で教授すべき内容をまと |
| 12. 第一次世界大戦期の世界 課題解決型学習・プレゼンテーションを通して、第一次世界大戦の展開について、当時の国際情勢をふまえながら学びます。 | | | | |
| 予習 | 高校世界史A教科書の「1910年代の世界史」の部分、またはそれと同等の書籍を読み、理解しておく。 | 約2時間 | 復習 | 予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における1910年代の世界史の授業で教授すべき内容をまと |
| 13. 戦間期のヨーロッパ・アメリカ・アジアと第二次世界大戦の惨禍 課題解決型学習・グループワーク・プレゼンテーションを通して、第一次世界大戦後～第二次世界大戦の世界情勢について学びます。 | | | | |
| 予習 | 高校世界史A教科書の「戦間期の世界史」の部分、またはそれと同等の書籍を読み、理解しておく。 | 約2時間 | 復習 | 予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における戦間期の世界史の授業で教授すべき内容をまとめ |
| 14. 冷戦と国際社会 課題解決型学習・グループワーク・プレゼンテーションを通して、冷戦時代の国際社会について学びます。 | | | | |
| 予習 | 高校世界史A教科書の「第二次世界大戦時期の世界史」の部分、またはそれと同等の書籍を読み、理解して | 約2時間 | 復習 | 予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における第二次世界大戦の授業で教授すべき内容をまとめ |
| 15. 現代世界と日本 課題解決型学習・グループワーク・プレゼンテーションを通して、第二次世界大戦後の日本と諸外国との関係について学びます。 | | | | |
| 予習 | 高校世界史A教科書の「現代世界史」の部分、またはそれと同等の書籍を読み、理解しておく。 | 約2時間 | 復習 | 予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における現代世界史の授業で教授すべき内容をまとめる。 |
| 16. 期末試験 | | | | |
| 予習 | | | 復習 | |